琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.27
2015. March

発行者　琉球病院事務部長
吉永　可公

院　長

福治康秀(ふくじ　やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て
2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第39回琉球セミナー
肥前精神医療センター
認知症疾患医療センター長　橋本 学先生をお招きして

認知症治療専門病棟　看護師長　平良恵美子

平成27年1月26日、月曜日の夕方、第39回「琉球セミナー」が開催されました。今回は、『地域という視点から認知症診療のあり方を考える』というテーマで、国立病院機構肥前精神医療センター（佐賀県）の認知症疾患医療センター長の橋本学先生をお招きし、講演して頂きました。肥前精神医療センターは、全国でも有数の精神科単科の医療機関で九州地域の基幹病院としての役割を担っている病院です。高度の臨床機能だけでなく研修や教育、研究分野でも注目されています。琉球病院とは、人材交流等も含め、様々な部門分野で相互に連携、協力しあっている施設でもあります。

さて、琉球セミナーですが、当日は院内外から70名を超える聴講者の方々が見えました。院外からは、認知症に関わる医療、福祉関係の様々な職種の方々が多数お見えになっていました。

橋本先生の講演から学びの一端を紹介してみます。

アルツハイマー型認知症に対しては、早期の段階からコリンエステラーゼ阻害薬の投与が望ましく、治験の段階とはいえMCI（Mild Cognitive Impairment軽度認知症）の段階でシロスタゾール（抗血小板薬）の投与によりMCIからアルツハイマー型認知症への移行（進行）阻止に有効だという研究についての紹介がありました。また、うつ病に罹患している人のアルツハイマー型認知症発症リスクについては、若年者の場合は、アミロイド代謝異常が影響しており約3.8倍のリスクがあるとされ、高齢者の場合は、脳血管病変の影響で約2.3倍ということでした。一般的には、糖尿病、高血圧、肥満等の生活習慣病の関連が言われている中、うつ病との関連については初めて聞く内容でした。更に「認知予備能仮説」は興味深く、アルツハイマー型認知症と診断されうる程度の神経病理学的病変（脳萎縮等）が生じていても「残存する機能が病変（器質的変化）に伴う機能を代償する」とされ、代償していれば認知症は発症しないという研究結果の紹介がありました。橋本先生は、身体活動など活動的ライフスタイルは「認知症予防」に貢献する可能性に着目されており、認知症早期（MCI）の段階で地域や病院での「多職種チームによる包括的認知リハビリテーション」介入の必要性、重要性について強調されていました。この包括的認知リハビリテーションについては、地域との連携の中で、医師だけでなく看護や臨床心理士、作業療法士他、認知症ケアに関わるあらゆる職種が取り組むべき方向の根拠となる示唆を頂きました。認知症ケアに携わる者としては、最新の情報が得られる講演で貴重な時間になりました。

最後に、当院は、認知症治療の専門病棟を有しており、昨年度、MRIを更新、脳機能等の変化を診断できる機器を整備しました。認知症の早期診断（鑑別など）についても診療機能を向上させていくことが喫緊の課題でもあります。2月からは、TV会議システムを使った肥前精神医療センターとの合同勉強会の企画が計画され、認知症医療及びケアに関して継続的に連携していくことになっています。益々、増大するであろう認知症医療、ケアに応えられるよう沖縄県内、地域に貢献していきたいと考えます。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス／那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

●病棟等建替整備の動き
進捗状況　本体工事：請負業者　電気設備　・・・・・・・　(株)九電工
機械設備　・・・・・・・　(株)三建設備工業
建築(第１期)工事・・・　(株)淺沼組
建築(第２期)工事・・・　(株)淺沼組

教育・研修

●包括的暴力防止プログラム(CVPPP)トレーナー養成研修
平成27年3月2日(月)～3月5日(木)　琉球病院研修棟3階　研修室

地域医療連携室だより

当院での受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として、地域医療連携室を設置しております。一般精神、認知症、アルコール依存症(アディ久ション全般)、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、修正型電気痙攣療法(m-ECT)、セカンドオピニオン等また、各種社会保障や就労等の生活相談全般に応じております。児童精神においては、県内全域より受診を頂いており、年々受診件数は増えてきています。お困りのことがあれば、お気軽に地域医療連携室へご相談下さい。

空床状況
2月25日現在

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
6床	2床	8床	2床

※ 入院予約に関するお問い合せは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17：15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
FAX:098－968－7370
地域医療連携室直通

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は131例になりました。平成27年1月の新規導入は3例でした。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も60例を超えています。1月には12年間入院を継続していた患者様が6ヶ月のクロザピン治療後に自宅退院されています。

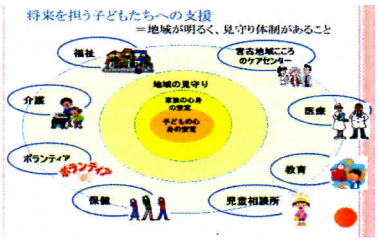
m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成27年1月の治療実績3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

「被災地のこどもたちの今」

2月13日に『東日本大震災の心ケアを振り返る－　地元援助者とともに必要な支援を考える』をテーマに琉球セミナーが開催されました。岩手県宮古市の保健師、看護師、臨床心理士の先生方、当時当院から支援に出向いた先生方をお招きし、被災地の今と今後の支援についてご報告していただきました。震災から4年が経過した現在もこころのケア支援体制を進めていく必要があること、特に将来を担い、復興を担うこどもたちへの支援が重要で、そのために子供たちが元気に過ごせるよう地域が明るく、見守り体制があることが大事とのご報告でした。



認知症医療

＜認知症専門看護師の育成について＞

当院では認知症専門看護師の育成の一環として、国立病院機構の菊池病院や肥前精神医療センター、国立長寿医療センターなどで開催される認知症高齢者研修に参加し、専門的知識と技術を習得し、日々の看護ケアに活かせるよう取り組んでおります。

さらに今年からは「ユマニチュード」という新しいコミュニケーション技法を施設導入に向けて、指導者研修への参加が決定しており、認知症ケア専門士の資格取得への取り組みも始めました。

地域住民の皆様から認知症専門の治療及び看護ケアが受けられる病院として選ばれるよう、今後も努力してまいりたいと思います。

認知症に関連することでご質問などございましたら、いつでもお問合せください。

重症心身障がい児医療

沖縄県下全域で、インフルエンザ感染警報が発令されています。当院の重症心身障がい病棟でも、感染対策には細心の注意を払っています。基本的な手洗い・うがいに加え、マスク着用・アルコールによる手指消毒などを、徹底しています。面会にいらっしゃる成年後見人やご家族にも協力を頂き、マスク着用・アルコールによる手指消毒を漏れなく行って頂くように声かけしています。感染拡大防止のためにも、対策を継続します。

さて、当院重症心身障がい病棟には強度行動障がいをお持ちの利用者が多いのですが、先日担当医師・山下がうるま市において、「強度行動障がいと医療」に関する講演（沖縄県社会福祉士会の皆様の推薦で）を行いました。県内福祉施設等に従事されている方々が対象でしたが、皆さま熱心に耳を傾けて下さっていました。ご参加頂いた皆様、どうもありがとうございました。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では1月現在、外来通院の患者様65名、入院中の患者様24名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

当院のR-ACTの紹介です。当院のR-ACT（ラクト：琉球病院の包括的地域精神医療）を略してR-ACTと前院長が命名をして下さいました。

当院のR-ACTは一般で言われている、多職種チームが固定し、365日、24時間サービスを行う体制ではありません。訪問看護と同様に、R-ACTの説明を行い、さらに同意書をもらいます。対象疾患や判断基準があり、病状が重い患者様や、将来的には就労を希望する方へ支援を行います。全スタッフは他の業務を兼務しています。そのため、対象者の数は10名以内と限定をしています。現在7名の対象者の訪問を実施しています。支援期間は、半年間です。地域関係者、ご家族、対象者を含め支援の状況や今後の方針を皆で共有し支援をしていきます。現在1年以上継続している方もおります。医療機関の関係上、医療面での支援にならない、本人が望む支援を「地域」で寄り添い、見守ることを大事にしています。

臨床研究部活動状況

「包括的暴力防止プログラム(以下CVPPP)におけるトレーナーフォローアップ研修の効果」－アンケートから見えてきたこと－藤枝慶行

医療現場でおきる暴力に対し、「暴力のリスクを評価・予測する、回避する、対応する、ケアする」というプロセスを科学的に理解する取り組みのひとつとして、当院では包括的暴力防止プログラム（CVPPP）を実践しております。すでにCVPPPは全国的に普及しておりますが、研修終了者（以下トレーナー）から知識や技術を忘れるとの意見が多いため、フォローアップ研修を実施することで研修の効果を検証しました。方法として、院内外のトレーナー47名に対し1日のフォローアップ研修を実施し、研修前後にアンケートを行いデータ収集しました。その結果、知識の理解度は36.1％から89.4％へ上昇し、技術の理解度は18.9％から91％へ上昇しました。今後はフォローアップ研修の内容と頻度の検証、研修を行える体制作りと実践面の評価が今後の課題としてあげられました。

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370